

地域の課題 研究者も考えます

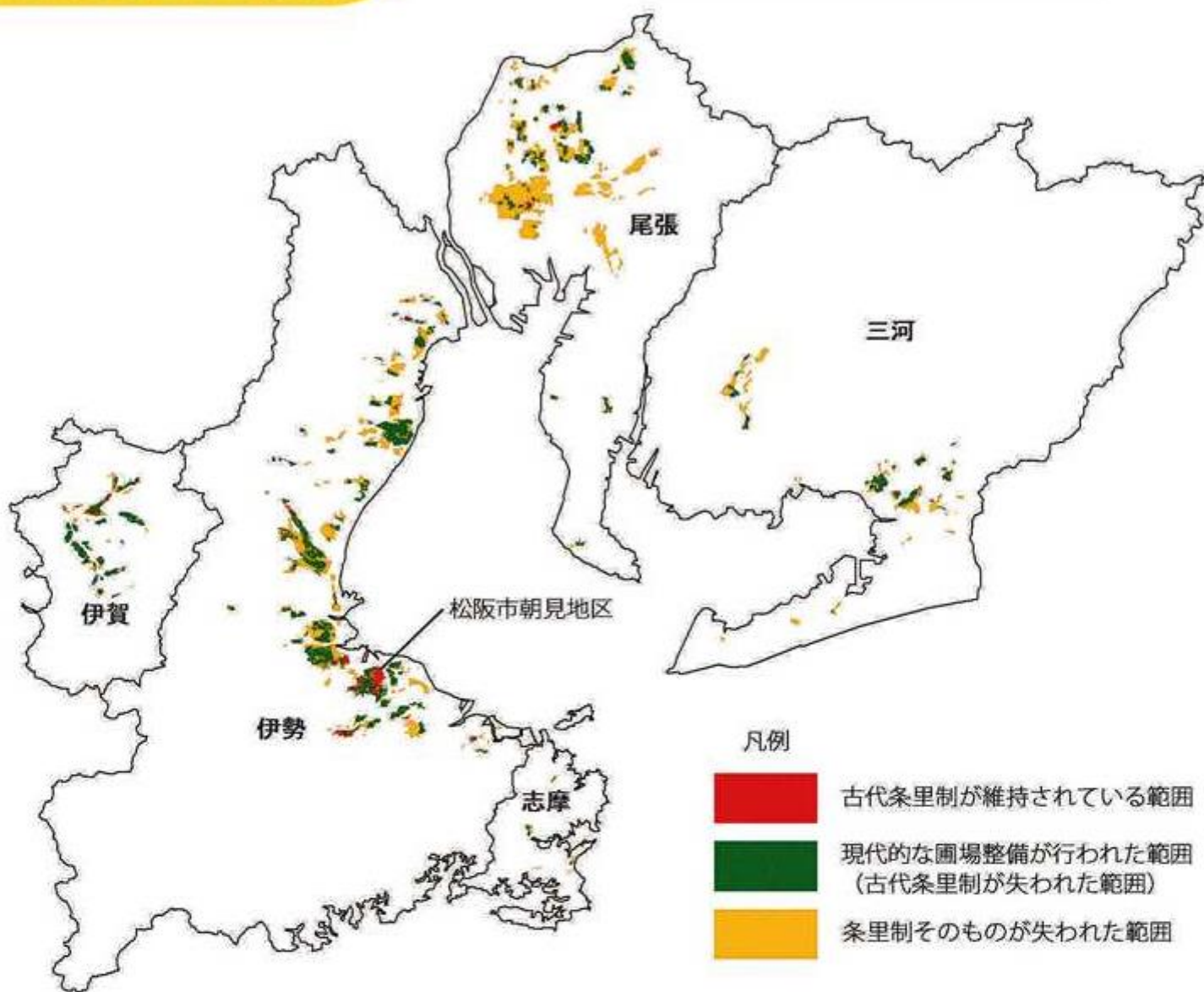
17

宝を生かす計画



宮脇 勝准教授

景観と農政組み合わせを



古代条里制水田は、現代に残る文化財で、日本の原風景として重要である。しかし文化的資源と位置付けられることなく、担い手の負担低減のために、コンクリート水路による圃場整備が進み、近年急速に消失している。図の赤い部分は、その古代条里制が残されている分布結果で、希少となっている。

一九八五年までの研究と比較して、二〇一八年にはわずか3・6%しか古代条里制水田が残っていないことが明らかになった。最も多くまとまって残っているのは、松阪市朝見地区である。

古代条里制水田の土の水路は、淡水魚と両生類が生息し人間がその恩恵にも浴する「生態系サービス」であるだけでなく、「日本の文化」を伝える貴重な古代の遺構で、一度失えば再生できない。

英国では、こうした貴重な文化財および生態的環境を保護する農政、地域づくりが採用されており、貴重な国土を管理している農家に国が支援金を出す制度がある。その際に、景観要素を文化的資源として位置付ける土地台帳を作成する。農地の持つ文化資源と生態の機能を特定し、積算する支援制度である。

日本固有の文化と環境の保全を同時に進める必要がある。古代条里制水田の価値に気がつくような政策と制度が必要である。具体的には国の文化的景観制度を農政に組み合わせることで、朝見地区にしか残っていない歴史ある水田を文化財としてブランド化し、日本の水田の歴史や生き物を知るエコミュージアムとして活用することが期待される。

文化財 エコミュージアムに

名古屋大学持続的共発展教育研究センター